

白井高齢者生活支援会議

第1層協議体

第1層協議体（白井高齢者生活支援会議）とは？高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、支え合う地域づくりについて、白井市全域を対象として話し合いをしています。各圏域のふれあい会議では、地域の課題などを話し合っています。第1層ではふれあい会議での報告を受け助言、情報提供をします。白井市は、第1層協議体名をわかりやすく「白井高齢者生活支援会議」としました。



白井高齢者生活支援会議

《令和4年度2層コーディネーター活動報告》

これまでの活動内容

- ① 4年度のコーディネーターの動きについて、個別支援を重要視する方向性にかわり、地域ケア会議にも生活コーディネーターの意見を積極的に行っています。
- ② 各3包括から上がってくる、個別の生活課題にも、地域を歩き資源を見つけて紹介しています。
- ③ カスミ移動スーパーの状況確認
- ④ サロン訪問・地域資源探し
- ⑤ 集合住宅管理組合への訪問
- ⑥ 勉強会開催

個別ケースのマッチングについて（4月1日～8月22日 10件）

相談依頼先 内訳

- 西白井地域包括支援センター 1件
- 中央地域包括支援センター 5件
- 民生・児童委員 2件
- （さつきの里）ケアマネージャー 1件

相談者本人 1件

相談内容・SC 情報提供先 内訳

- 通いの場 5件
- まごころサービス 1件
- 傾聴ボランティア 1件
- 南山買い物支援バス 1件
- ワンコインサービス 1件
- 地区社協（ちよい困活動） 1件

第1層協議体

H29年度会議にて（初年度）「白井高齢者生活支援会議」にて、白井市内全体のテーマを「ふれあう」としました。

白井高齢者生活支援会議に参加している団体の代表

【委員メンバー】 ※敬称略
白井市自治連合会

飛田 毅

地区社会福祉協議会

成田 秀雄

白井市民生委員児童委員連絡協議会
山下 昌江

白井市高齢者クラブ連合会

中村 良雄

(福)阜仁会 さつきの里

寺田 健一

NPO 法人白井市ボランティア連絡協議会
入江 富士子

公益社団法人白井市シルバー人材センター

大郷 祐紀雄

白井市商工会

駒村 武夫

白井市介護支援専門員

仲山 君子

ASA NT白井

能登 雅彦



勉強会について

(1) 6月8日水曜日 中小企業家同友会白井支部 6月定例会
生活支援コーディネーターから生活体制整備事業と企業とのかかわりにつ
いてのテーマで講義を行い、その後ワークショップ実施しました。

- 1 生活体制整備事業について 高齢者福祉課 安岡
- 2 生活体制整備事業と企業のかかわり 社協 秋本
- 3 ワークショップ

(テーマ①生活の中の困り事②移動が困難
③買い物が支援④人との繋がりが希薄になっ
てしまいがち から各グループ一つ選んでいただ
く)

展開

ワークショップでは普段から行われている押し売
りに対するクーリングオフの手伝いやゴミ出しの手伝いが助け合い活動になるというこ
の発見などもあった。



(2) 7月19日(火) 東部民生児童委員定例会にて助け合い活動につ
いて担当課と共に勉強会を実施。



- ・高齢者福祉課 安岡氏【介護保
険と地域の支え合い～民生委員と
生活支援コーディネーターの連携を
考えよう～】
- ・社協 鈴木【支え合いの地域づく
りについて（漫画の要約）】



カスミスーパー移動販売開始！

3月3日に(株)カスミと包括連携に関
する協定を締結し、新年度より移動
スーパーによる市民の買い物支援や
健康づくり、地域の見守り、災害時
における被災者等の支援など幅広い分
連携が始まりました。





(3) 七次台自治会にて助け合い活動についての出前講座実施

事前に配布してもらった資料を持参していただいた。その資料の要点について簡潔に説明を行った。集いの場の立ちあげに際して、社協が行っている試行の予算についての説明を行い、住民に社会資源の創出を促した。



今後自治会内でサロンについて説明会を予定している。必要に応じて助言、援助をおこなう。また、今回はワークショップや生活体制整備事業についての説明が行えなかったため、2回目の勉強会をさせてもらえるようお伝えした。

(4) 第二小地区社協推進員にちよい困講座立ち上げに向けた勉強会実施

平成31年3月 買い物支援の試行を開始したが、コロナの影響により活動がストップしてしまった。

新たに生活支援の活動に関心を示し、今回の勉強会の機会となった。



★9月26日・30日【ちよい困サポーター養成講座】について ご案内
ちよい困サポーター養成講座では、助け合い活動がなぜ必要なのか？
というところから、高齢者の生活課題はどういうものがあるのか？
住民で助け合い活動をするには、どういう方法があるのか？をお伝えした。



3つの包括支援センターから状況報告

白井中央包括支援センター

- ・4月より開所したばかりのため、地域資源や地域の特性について、これから連携をとっていきたい。
地域は梨農業が多く、農業をやめてしまったら行き場がなく、認知症の方が増えてきている状況で見守りも必要とされている。移動の手段も車でないと不便のため、集いの場まで行くのに大変。免許を返納してしまうと病院にも行けない。介護保険に頼らざる得ない。

白井駅前地域包括支援センター

- ・買い物、移動、集いの場の不足の声が上がっている。
企業と商店とのつながりが少しずつ始まっている。駅前の岡沢薬局では、心配な高齢者がいたら包括との連携や、スポーツクラブとは、高齢者に特化した安価なプランの提案を要望している。地域の連携をSCとともにやっている。

西白井地域包括支援センター

- ・ゴミ出し、スーパーへの移動問題、サロン等について毎月のSC打ち合わせで情報交換をしている。利用者の実態調査の中に住みやすい地域についてアセスメントしていく予定。
窓口の相談者には、制度の話の他にまずは、地域の活動のご案内を進めている。そのためにも地域資源の発掘をSCと連携していく。

【第1層協議体委員からの質問やご意見について】

- ・企業のゆるやかな見守り活動についての、ご質問があったり、自らがサロンに顔を出し、その状況報告をいただいた。
その他、サロンの開催状況がどうなっているのか？ご質問があったが、コロナの影響があり、開かれているところもあるが、飲食無しの開催や人数を制限しての開催状況であることを伝えた。
コロナの影響は、人と人とのつながりを閉ざしてしまい、高齢者にとってはとて



も厳しい状況であるが、今後のご意見を伺いながら SC 活動につなげていきたい。